

【2020年度 技術賞】

梅小路京都西駅新設及び旧鉄道施設の活用による地域活性化

西日本旅客鉄道(株) 京都市建設局道路建設部道路建設課 大鉄工業(株) ジェイアール西日本コンサルツ(株)

事業概要

<背景>

嵯峨野線京都・丹波口間の七条通付近の地域では、京都鉄道博物館の建設など民間開発が進んでいた。更なる地域の活性化を目的として、京都市とJR西日本にて新駅の設置及び周辺施設の整備を検討し、計画・実施した。

<事業内容>

本事業では新駅設置(2面2線)に併せて旧鉄道施設を活用した歩行者専用橋等の周辺施設整備を実施し、2016年9月に工事着手、2019年3月に開業・供用開始した。さらにその後も、本事業で使用廃止した鉄道施設を活用した地域活性化イベントなどの取組を行っている。

<課題となっていた点>

営業中の既設鉄道高架橋の近傍かつ幹線道路上での作業が必須であり、工事期間中の鉄道と道路交通の安全を確保した施工が求められた。特にホーム中央部の七条通上空の既設鉄道橋にはホーム設置が不可能であったため、大規模な鉄道橋架替工事が必要となった。



技術の概要

【新しい技術】ICT技術の活用、新型ホーム柵の開発及び設置

【使える技術】周辺交通への影響を最小限とする駅設備計画

【成し遂げた技術】幹線道路上空において営業中鉄道橋の多軸台車でのホーム一体型鉄道橋への架替を一晩で実施した。過去に事例のない大規模工事であったため、詳細手順の決定や試験施工による確認を事前に実施した。工事本番は新設桁の最終据付誤差±0mmで架設完了し、計画時間内で高い精度の桁架替が実現した。

【喜ばれる技術】使用廃止した鉄道高架橋は歩行者専用橋として再活用し、歩行者専用橋以外の箇所では地域活性化イベントを試行的に開催している。また、地元小学校との交流や京都鉄道博物館に近接する新駅の特徴を活かしての独自の駅現場体験も実施した。



成果

新駅の開業及び周辺施設整備の完成により、地域へのアクセスが改善された。また、新駅開業を契機に周辺エリアの開発も進んでおり、更なる地域活性化が期待される。加えて、工事期間中に実施した地元小学校との交流や駅現場体験等の取組により、新駅や鉄道土木分野への関心や期待感の醸成に繋げることもできた。

